

## 船舶事故調査報告書

平成23年10月20日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 石 川 敏 行

事故種類	乗揚
発生日時	平成23年6月22日 16時40分ごろ
発生場所	長崎県平戸市生月島西岸 <small>いきつき</small> <small>おおばえはな</small> 生月島所在の大礫鼻灯台から真方位195° 2,500m付近 （概位 北緯33° 25.1′ 東経129° 25.4′）
事故調査の経過	平成23年6月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <small>まるふく</small> 丸福丸、4.8トン SA3-23456（漁船登録番号）、個人所有 11.40m (Lr) × 2.54m × 0.79m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、昭和60年9月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年1月9日 免許証交付日 平成23年1月20日 （平成28年11月6日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底、舷側外板及び舵を破損、プロペラ翼及びプロペラ軸を曲損
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、平成23年6月22日15時45分ごろ生月島<small>たちうら</small>浦漁港を出港し、同島南岸沿いを同島西方のいか釣り漁の漁場に向けて手動操舵により約7ノットの対地速力で西進した。</p> <p>船長は、出港時から眠気を感じていたが、窓を閉め、椅子に腰を掛けて操船を続け、16時10分ごろ、生月島長瀬鼻西方約0.4海里において、同島西方の予定錨泊場所に向ける北北東の針路とし、自動操舵に切り替えて航行した。</p> <p>船長は、椅子に座った状態で見張りを行っていたところ、変針して間もなく居眠りに陥った。</p> <p>本船は、16時25分ごろ予定錨泊場所を通過して生月島西岸に向けて航行し、16時40分ごろ、大礫鼻灯台から真方位195° 2,500m付近において、同島西岸の岩場に乗り揚げた。</p> <p>船長は、衝撃で目が覚め、自力離礁できなかつたので、携帯電話で海上保安庁に118番通報して救助を要請し、来援した巡視艇に救助された。</p> <p>本船は、翌23日14時ごろクレーン船に積載され、伊万里港の造船所に運搬された。</p>

気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風速 約4m/s、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期</p>	
その他の事項	<p>本船は、生月島西方海域において、夜間、船長が睡眠をとらず、集魚灯を点灯して4台のいか釣り機により操業し、05時ごろ入港して水揚げを行い、食事、買い物、入浴などをして昼ごろに帰船したのち、約3～4時間本船で睡眠をとり、氷を積み込み、16時ごろ出漁する操業形態を採っていた。</p> <p>船長は、本事故前、上記の操業形態を約1週間繰り返していたので、睡眠不足と疲労が蓄積した状態となっており、本事故当日は出港時から眠気を感じていた。</p> <p>船長は、レーダー及びGPSプロッターを作動させていた。</p> <p>本船の出港時の喫水は、船首約0.3m、船尾約1.5mであった。</p> <p>本船には、居眠り防止装置は設置されていなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、生月島長瀬鼻西方沖を自動操舵により北北東進中、船長が、睡眠不足と疲労が蓄積した状態で椅子に腰を掛けて操船を行っていたところ、居眠りに陥ったことから、予定錨泊場所を通過して生月島西岸に向けて航行し、同島西岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、1日に約3～4時間の睡眠しかとらずに約1週間操業を続けていたことから、睡眠不足と疲労が蓄積した状態であったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、生月島長瀬鼻西方沖を自動操舵により北北東進中、船長が居眠りに陥ったため、予定錨泊場所を通過して生月島西岸に向けて航行し、同島西岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・航行中に眠気を催した場合には、立ち上がって身体を動かすなどして眠気を払う措置をとること。</li> </ul>	